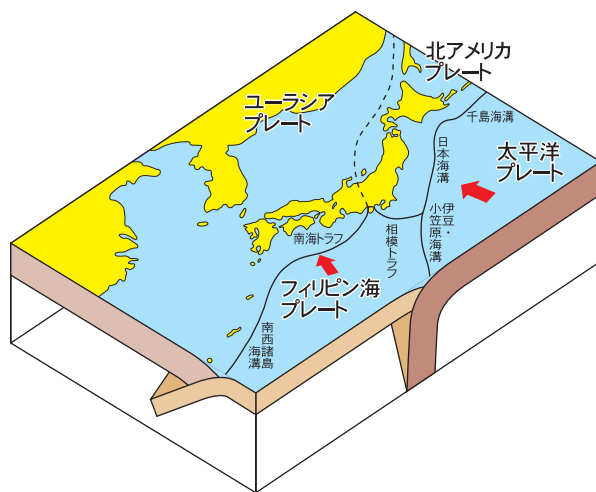


東南海・南海地震津波想定区域図(津波ハザードマップ)

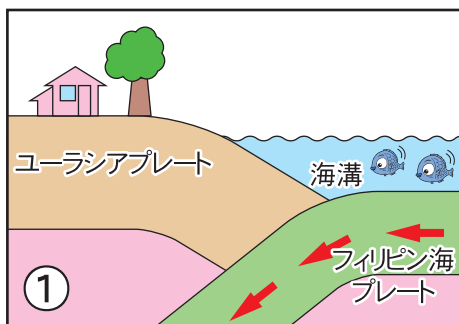
1 東南海・南海地震津波想定区域図は、東南海地震と南海地震が同時に発生した場合の津波による浸水被害の状況を示したもので、平成15年9月に内閣府中央防災会議がシミュレーション結果を公表した資料をもとに、津波による危険性を知らせていただくため、松前町が編集・作成しました。なお、東南海地震と南海地震が同時に起きた場合(震源地は下図の南海トラフ)、松前町では震度6弱となることが予想されています。

2 東南海地震、南海地震のように、海底下の広い範囲を震源域とする巨大地震は海溝型地震(プレート境界地震)と呼ばれ、下図のようなメカニズムで発生します。海溝型地震では、地震により震源域の海底が急激に隆起したり沈下したりするため、海水が上下に動き、大規模な津波が起こります。

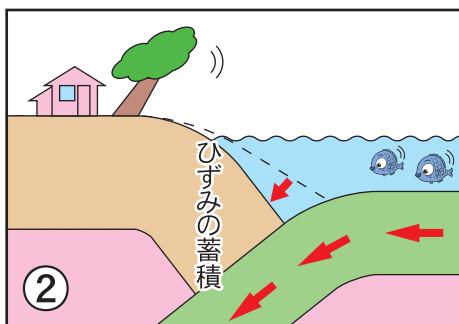
〈日本周辺のプレート〉



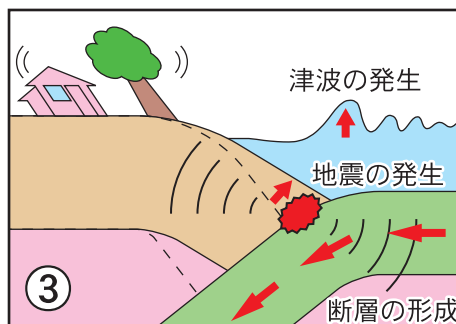
〈海溝型地震の発生メカニズム〉



① 海側のプレートが約4 cm / 年の割合で陸側のプレートの方へ移動し、その下へ潜り込む。



② 陸側のプレートの先端部が引きずり込まれ、プレートに歪みが蓄積する。



③ 歪みの蓄積が限界に達した時、陸側のプレートが跳ね上がり、地震・津波が発生する。

3 シミュレーションは、遠州灘西部～土佐湾までのプレート境界(南海トラフ)を主な震源域とする宝永地震(1707年)など過去の大地震のデータをもとに行われたもので、松前町では、地震発生から約2時間後に津波が来ると予想されています。

4 なお、津波想定区域図は、標高データ等をもとに海岸構造物がないという想定条件により作成したもので、津波が必ずこのとおりにやって来るわけではありません。また、東南海地震と南海地震が時間差をおいて発生した場合には、初めの地震による津波に後の地震の津波が重なり合って、津波が大きくなる場合があることにご注意下さい。